

熊本地震の報告

～地震発生から今日まで～

社会福祉法人 慶信会
城南学園・第二城南学園

慶信会の所在地

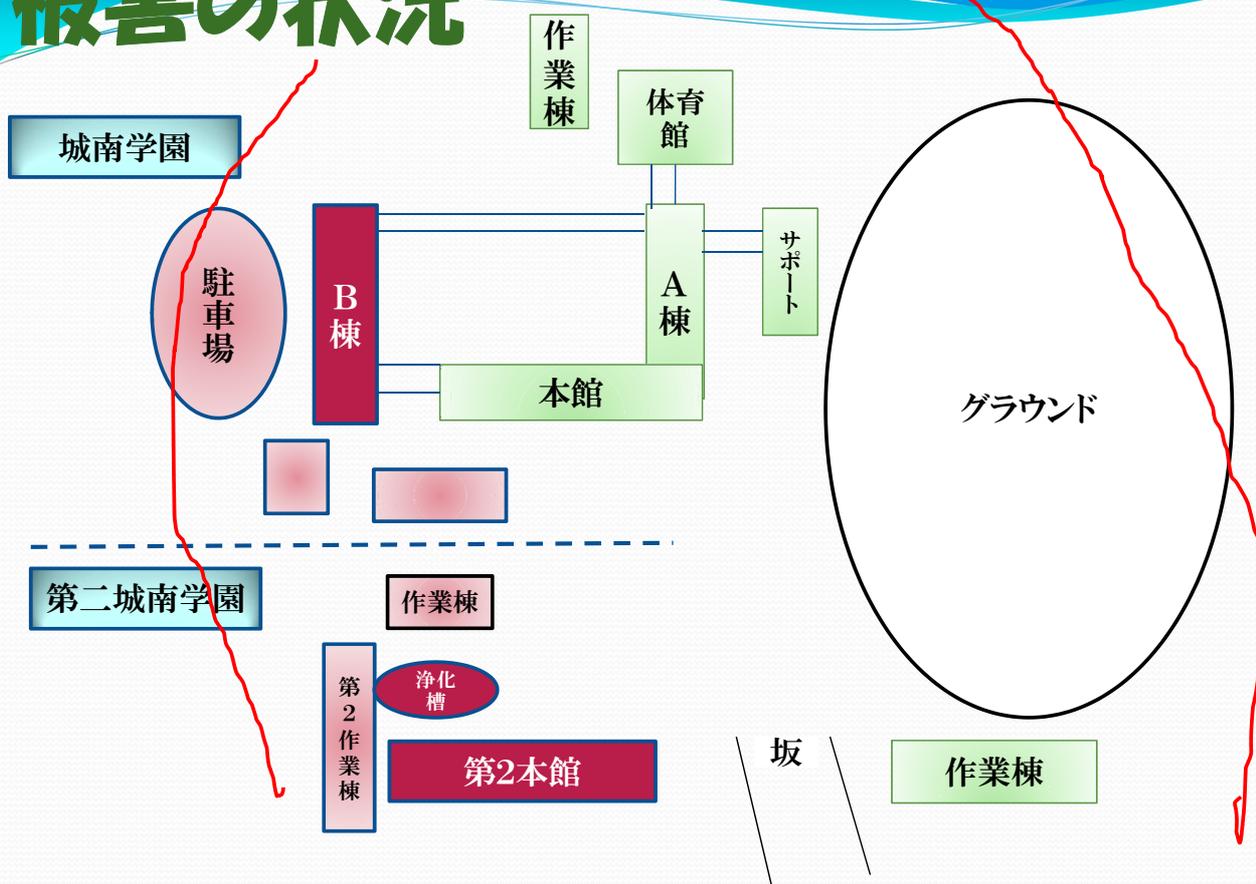


城南学園・第二城南学園のある熊本市南区城南町は、熊本市の東南に位置し、益城町にも近く、同じく被害の大きかった御船町に隣接している。

平成28年4月14日
午後9時26分

熊本地震発生

被害の状況



地震直後の状況 ~本体及び周辺~

事務所

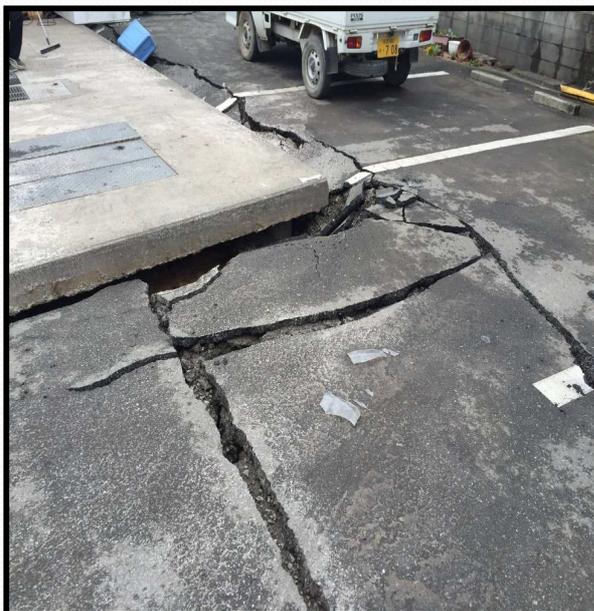


玄関周辺

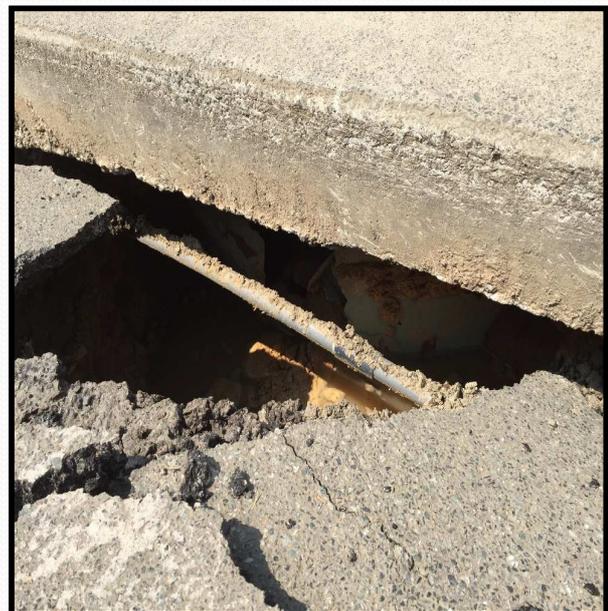


地震直後の状況 ~本体及び周辺~

第二駐車場(浄化槽周辺)



第二駐車場(浄化槽周辺)



地震直後の状況 ～外壁等～

体育館



外トイレ



地震直後の状況 ～外壁等～

グラウンド



駐車場外壁



地震直後の状況 ～ 外壁等 ～

城南学園
新作業棟



第二城南学園
作業棟裏



被災対策本部立ち上げ

本部

被災

あまり機能しなかったのが実情

- 職員の確保
- 勤務体制の調整
- 職員の動静の把握等
- 連絡・調整等

- 支援物資等の情報収集
- 情報伝達
- 受付・受け取り等

避難訓練だけでなく、被災後の訓練も必要と実感

障がい者支援施設 城南学園

※ 利用者の日常を
取り戻すための取り組み ※

城南学園について

※平成29年1月現在

□障がい者支援施設城南学園

- ・施設入所 (定員50名 利用者50名)
- ・生活介護 (定員50名 利用者47名)
 - 短期入所 (定員5名 利用者1名程度)
 - 日中一時 (定員7名 利用者1名程度)

□生活介護事業所サポート (定員20名 利用者21名)

□居宅介護事業所

(居宅介護・同行援護・行動援護・重度訪問介護・移動支援)

□相談支援事業所 (特定・一般・障がい児)

その他敷地外にグループホーム、放課後等デイサービス、生活介護事業所等の事業を展開している。

地震発生直後

4月14日 前震

- グラウンドでブルーシートの上に布団をしいて一晩を明かす



4月16日 本震

- 公用車に避難し、1晩を明かす



前震直後 ～室内～

食堂



利用者居室



本震後の入所(B棟)の状況



全壊との判定

日常生活の問題

物理的な問題

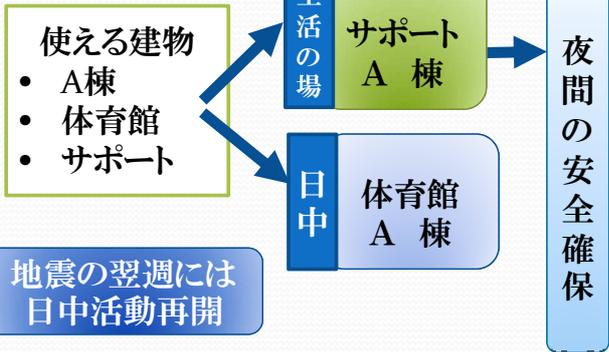
- B寮が全壊し24人の利用者の居室がなくなった。
- タンス等、倒れてくる恐れのある物の保管場所の確保
- 入浴や食事をどうするか
- 日中活動の場所の確保ができない

利用者の不便さ

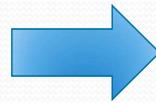
- 自分の部屋がない
 - 自分のテレビが見れない
 - 今までの生活と一変したスケジュール
 - トイレが使えない
 - 日中活動ができない
- etc.....

生活及び活動の場の確保

すぐに避難できる体制を優先



ダンス等の保管場所



体育館に移動し何も無い空間を確保



生活及び活動の場の確保

入浴

水道配管の損傷により断水

修繕

水が濁り使えず

生活介護事業所の浴室が使用可能とわかる

八代学園にお風呂を借りる

生活介護事業所での入浴開始

午前：サポート利用者
午後：寮
月水金 A寮利用者
火木土 B寮利用者

修繕

5月2日から本体にて入浴再開

食事

地震後：生活介護事業所や体育館・A寮のホールにて食事をとる

夕食時間：
地震前18:00 → 17:00

4/28
夕食より食堂での食事を再開

調理より
夕食時間の
変更の相談

5/20 17:30に変更

寮・調理で話し合いながら調整を継続中

調理

[地震直後]

- 水道、ガス配管の損傷
- 4/15朝～ 運動場で炊き出し
4/17～ ガス会社からプロパンガスを
レンタル。ブルーシートをはり
渡り廊下にて調理を行う。

調理場が
使えない



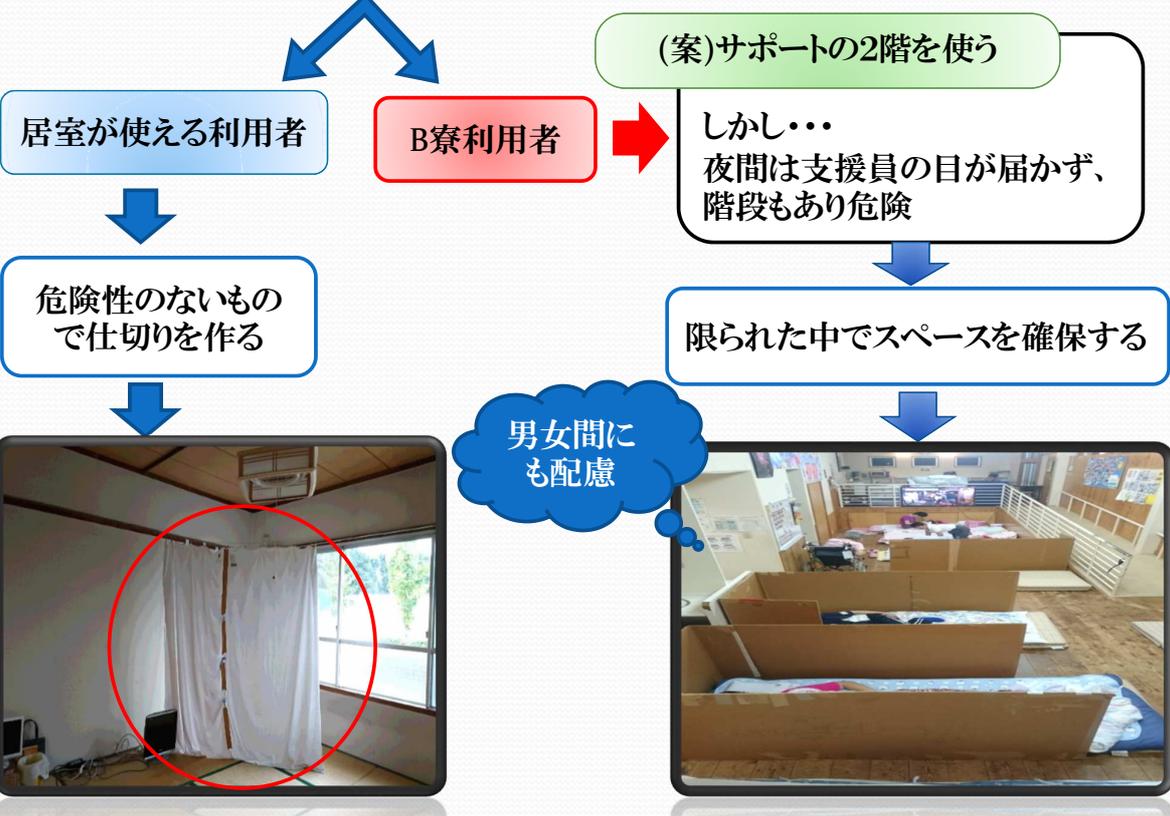
18日深夜2時
福岡県の、野の花
学園から物資が届く。

- 備蓄が18日の朝までしかない

その後、九州・熊本の各施設や九州ネットワークフォーラム、熊本市等から物資を届けていただき、普段と変わらない食事の提供ができた。

- 4月28日 夕食時より厨房での調理再開

利用者のニーズ 自分のスペースがほしい



利用者のニーズ

好きなテレビ番組を観たい

場所

サポートの2階・食堂を活用

方法

分配機を使用

余暇支援

ジュース休憩

1. 利用者の安全確保
2. スマートフォンの活用



コーヒータイム

- ・夜余暇の実施が難しく日中に実施
- ※現在は夕食後に実施



リフレッシュできる活動の提供

- ・ドライブ・水遊び等



日中活動支援

城南学園

障害者支援施設
生活介護

生活介護事業所
サポート

農芸・加工品
生産中心の
グループ

委託作業中
心のグループ

療法・療育中
心のグループ

生活介護事業所 サポート



被害のあるなし、大小にかかわらず、地震翌日から利用の希望が多くあった

早急に受け入れ体制を整える必要あり

課題	対策
送迎及び時間	<ul style="list-style-type: none"> 安全なルート確保 ご家庭との連携 渋滞を避けた送迎時間の設定
活動場所	<ul style="list-style-type: none"> 席の見直し 個々のスペースを確保
活動の形態	<ul style="list-style-type: none"> 小集団にグループ分けした活動 (園外活動や農芸を取り入れる等)

CLEAR!

翌週には事業所再開

障害者支援施設 生活介護

● 園芸・加工品生産グループ

震災後の主たる活動

1.瓦礫等の回収・整理

2.農作物の収穫

3.加工製品の生産等

支援員が中心

利用者が活動できる

例：EM製品の生産

乾燥機が破損 ⇒ 機械を使わずに乾燥するには? ⇒ 天日干しで乾燥



乾燥に掛かる日数
乾燥機・・・1日
天日干し・・・1週間

時間はかかるが利用者が中心になれる

障害者支援施設 生活介護

- 委託作業中心グループ(活動場所:作業等⇒A棟へ)

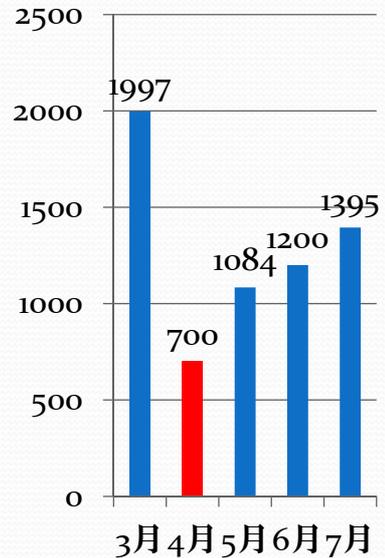
目標:「利用者の安定を図る」



出来るだけ通常通りの活動を行うためには。。

課題	対策
広いスペースが必要	ホールに限定せず、 居室や廊下 を使って 構造化を図り 、作業棟と同じ状況を作るようにする
ホールではスペースが限られる	
構造化が難しい	

弁当袋



障害者支援施設 生活介護

- 療法・療育中心のグループ



訓練室から体育館へ

活動の場が全壊

課題

- ◎ タンスや荷物がある
- ◎ スペースが限られる
- ◎ 余震が続いており不安

気分
転換

不安
軽減

活動の
充実



屋外での活動を段階的に取り入れる

- ・日光浴
- ・ウォーキング
- ・少人数でのドライブ
- etc...

熊本地震

第二城南学園における復興に向けての 取り組み

第二城南学園について

※平成29年1月現在

- 生活介護 (定員：27名 利用者：32名)
- 就労継続支援B型 (定員：15名 利用者：20名)
- 就労移行支援 (定員：6名 利用者：8名)
- 自立(生活)訓練 (定員：6名 利用者：4名)
- グループホーム (定員：15名 利用者：13名)
- 相談支援センター (特定・一般・障がい児・委託)
- 就業・生活支援センター(県南部・熊本市中央部)

※地震発生時、グループホームには
13名の利用者が・・・

地震直後の状況 ～グループホーム～

4月14日(前震)・・・けが人なし

4月16日(本震)・・・**けが人あり(1名)**



対応について

- 1つのグループホームに全員で避難し、身の安全の確保
- 各家庭に安否状況の連絡(帰宅等の調整)
- 住環境やライフラインの確保(飲食物・生活用品等)
- 体調等の確認及び処置(怪我等の有無、ストレスケア)

地震直後の状況 ～本体及び周辺～

第二城南学園(管理棟)



駐車場



地震直後の状況 ～本体及び周辺～

職員室



食堂



地震直後の状況 ～本体及び周辺～

1階ホール(管理棟)



2階多目的ホール(管理棟)



地震直後の状況 ~本体及び周辺~

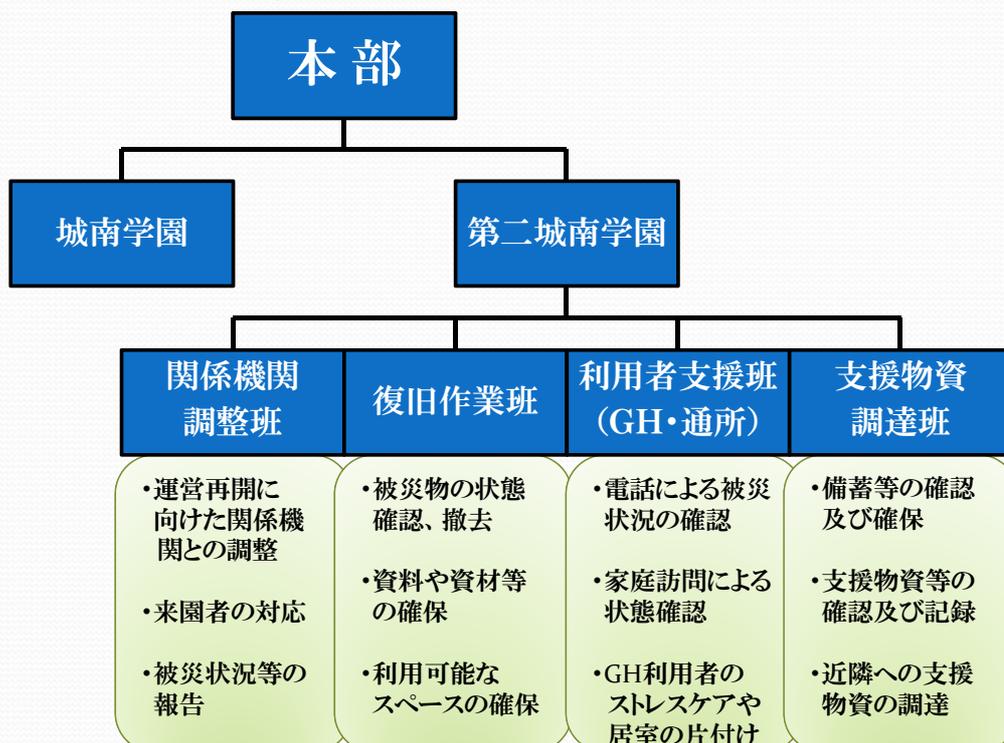
2階多目的ホール(管理棟)



2階多目的ホール(管理棟)



復旧に向けて ~被災対策本部の立上げ~



復旧に向けて ～見えてきた課題点～

物理(環境)的な課題

○職員の確保

- ⇒職員、その家族も被災者となっている
- ⇒道路状況の変化により、出勤に時間が掛かる

○日中活動場所の確保

- ⇒建物自体が被災にあっており、安全面の確保が難しい。2次的被害(雨漏りやカビ等)もある
- ⇒避難箇所や避難経路の確保が出来ない

○ライフラインの確保

- ⇒水道やガスが使えない為、食事が作れない
- ⇒水道が使えない為、トイレが流せない

○復旧に対する時間

- ⇒被災状況の確認や調査に時間が掛かる為、復旧の目途が立ちにくい

精神(心理)的な課題

○余震

- ⇒いつ来るか分からない余震に対する不安と緊張
- ⇒更なる“被害拡大”という不安

○建物被害

- ⇒崩れている場所に対する不安
- ⇒更なる“被害拡大”という不安
- ⇒2次的被害(雨漏りやカビ等)による気苦労がある

○衛生面

- ⇒トイレが流せず、臭いやハエの発生
- ⇒使える場所が限られる事に対するストレス

○復旧に対する時間

- ⇒被災状況の確認や調査に時間が掛かる為、復旧の目途が立ちにくい

※環境が整えば地震前と変わらない通常日課に戻れると思っていた…

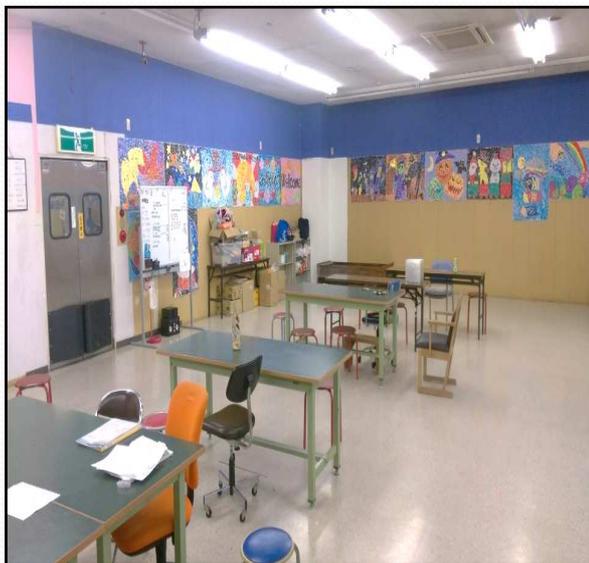
(職員談)

復旧に向けて ～新たな場所での再開～

仮事業所での開所式



仮事業所(生活介護)



復旧に向けて ～新たな場所での再開～

仮事業所(自立訓練)



仮事業所(自立訓練)



復旧に向けて ～新たな場所での再開～

仮事業所(食堂)



仮事業所内(更衣室)



新たに見えてきた課題点

【生活介護・自立訓練】

- ⇒ワンフロアの為、場面の切り替えや個室スペースの確保が難しい(音や声が筒抜け状態)
- ⇒交通量が多い場所なので突発的行動に対する細心の注意が必要。
- ⇒地震に対するケアが十分に出来ていない。

【就労継続支援B型】

- ⇒作業スペースや安全面の確保が難しい。また、避難箇所や避難経路の確保が出来ない。
- ⇒下請け先の営業再開に時間が掛かり、作業がない状況が続いた。
- ⇒仮事業所と距離がある為、移動に時間が掛かる。
- ⇒作業場所にトイレがなく、別の場所まで行かないといけない。

【就労移行支援】

- ⇒建物修理に要する時間が掛かった(大家さんとの調整、修理業者との調整 等)
- ⇒道路状況の変化により、交通渋滞が見られた。
- ⇒第二城南学園(本体)との“報・連・相”のタイムラグがあった。

【グループホーム】

- ⇒生活場面(入浴・洗濯・食事等)における場所や時間の制限があった。
- ⇒個室スペースの確保が難しく、ストレスの蓄積が見られた。
- ⇒居室内の片づけや個人所有物の処分に時間と費用が掛かった。

復旧に向けて ~前を向きながら~



平成28年11月19日(土)に『スマイルハートフェス in 慶信会』と題して、城南学園・第二城南学園、塚原仮設住宅や藤山仮設住宅を含む近隣住民も交えた復興イベントが開催されました。被災に遭われた方からは「久しぶりに心から楽しめた気がする」「今日1日は地震の事を忘れる時間になった」等といった声を聞く事が出来ました。

(復興祭実行委員)

復旧に向けて ~今後の動向について~

- 建て替え復旧助成金を活用
 - 第二城南学園・・・平成29年 3月31日復旧完了(予定)
 - 城南学園 ...平成29年11月 復旧完了(予定)
※平成29年3月より全壊したB棟の解体新築工事開始
- 以上の予定で完全復旧まで1年以上を要する見込み...

熊本地震で学んだ事

○避難訓練の重要性

火事・水害・地震等についての避難訓練(城南学園・第二城南学園グループホームでは日中・深夜・早朝等でも実施)を毎月行っていた事が今回の地震でも役立っている。

⇒イマジネーションと柔軟な対応に繋がる。

⇒被災した状況下での訓練も必要(避難経路や避難場所の再設定)

○“報・連・相”の重要性

職員間での連携、事業所間での連携、施設間での連携を密に取る事で優先事項の確認、円滑な利用者支援や復旧に繋がっていく。

○命の大切さ

「利用者の命を預かっている」という事実の再認識。

支援員も被災していると第一義的な考えが希薄になってしまう。

⇒「〇〇がない」「危ないから・・・」の発想は時に支援の妨げとなる。

⇒「代用品での対応」「今ある資源を使っての支援展開」を考えて実践する想像力(発想)と行動力を養う事が必要。

県内外、団体・個人
様々な方から沢山の
物資やご支援を頂きました。

ご清聴

復旧~~あり~~がない場所が~~多い~~ありますが
今ある環境を最大限に生かし、
安全に配慮しながら日常を一日でも
早く取り戻せるように日々頑張っています。

慶信会

まだまだ道のりは長いですが
皆で頑張っていきたいと思います。